

◆地域活動

魚類養殖指導（沖縄本島北部地区）

水産業改良普及センター本部駐在 中村勇次

1. 目的

沖縄本島北部では、陸上養殖で1漁協、海面養殖で3漁協が魚類養殖を実施している。対象魚種は、マダイ・ハマフエフキ（タマン）・スギ・ヤイトハタの4魚種で、それぞれの種苗配布や魚病診断に関する調整、販売促進等を行うことにより魚類養殖業の取り組みを支援することにした。

2. 材料及び方法

伊平屋漁協、伊江漁協、羽地漁協、本部漁協において、魚類養殖指導及び種苗配布の調整、魚病指導、放流への対応等を行なった。

3. 結果

種苗配布は、タマフエフキ（タマン）、ヤイトハタ、スギ、マダイの4魚種について調整を行った。

魚病指導では、伊江島において7月後半にヤイトハタのVNNによる斃死が確認された。8月初旬には斃死が収まったことから生残数を確認したところ1生け簀で4割の斃死が確認された。その後、栽培センターから再配布で対応した。

5月に伊平屋漁協陸上養殖施設において肥満度の測定を行った。陸上養殖のヤイトハタは痩せている印象があることから実際に肥満度を測定してみたが数値的にやや痩せている傾向が示された。

7月15日にブセナテラス15周年記念タマン放流イベントへの対応を行った。タマンの種苗生産についての説明と放流について現場確認を行った。

7月18日に金武漁港沖合でのタマン放流

について同行して現場確認を行った。

今年は全国豊かな海づくり大会が開催されることから関連イベントとしての放流が多数実施された。

11月4日に大宜味小学校において全国豊かな海づくり大会関連イベントとしてタマン放流が実施された。参加した小学生は約50名であった。

11月10日に今帰仁村運動公園市民の浜で開催されたコスモアースコンシャスアクトクリーンキャンペーンに参加した。同イベントでは、市民の浜周辺の清掃活動を実施した後タマン放流が行われた。放流には約600名が参加し合計約2千尾のタマンが放流された。

12月25日に名護市においてタマン放流イベントが開催された。同イベントは、11月19日・20日の両日に渡って開催された全国豊かな海づくり大会のために中間育成された魚を放流するために開催されたものである。名護市源河小学校で放流出発式を行ってから屋我地大橋付近の海岸へ移動してタマン約2千尾を放流した。

4. 考察

魚類養殖については、生産に関する指導も重要であるが、販売力の強化に関する取り組みがより重要である。現在、生産に対する指導が主となっており、販売力強化に関する取り組みを十分行えていない。今後、販売力強化に関する取り組みを強化していきたい。



大宜味小学校タマン放流前の説明の様子



今帰仁村村民の浜タマン放流の様子



大宜味小学校でのタマン放流の様子



名護市屋我地大橋付近でのタマン放流



今帰仁村村民の浜ビーチクリーンの様子



名護市屋我地で放流後の記念撮影